

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

7
No.392



温故知新 ～一途に社協道～

様々な人に支えられて

福井県立春江工業高等学校 応援団

かどや ゆうま
副団長 角谷 勇馬 さん（坂井市）

第85回記念選抜高等学校野球大会（平成25年3月22日開催）に出場することが決定し、学校中が歓喜の渦に包まれました。そして、生徒それぞれが野球部のために「何かしたい」という強い意志が芽生えました。しかし、本校には応援団と応援に必要な吹奏楽部、さらに本番までの時間もないという「無い無い尽し」の不安だらけでのスタートでした。

応援団員は、各運動部から有志を募り、30人が集まりました。そして、楽器部隊は、春江中学や近隣の丸岡、三国、金津の各高校、福井大学の吹奏楽部で編成されました。

応援団の指導は、野球部の川村監督が大学時代の先輩後輩の間柄だった兵庫県立姫路工業高校野球部監督に相談し、同校の協力のもと演奏や応援団の振り付けDVDを制作していただきました。

特に、大太鼓の合図で演奏を始めるタイミングや、屋外でいかに大きな音を出し、合わせるかは難しく、中にはリズムに乗れない人、動きが複雑なために覚えるのに苦労する人がいるなどいろいろな苦労がありました。それでも、生徒同士で声をかけ合い、教え合い、支え合いながら本番に向けて団結していきました。

一方で、楽器部隊もそれぞれに練習を重ねていましたが、一度も応援団と合同で練習をしたことがなかったので1泊2日の合同合宿も行いました。その時には姫路工業高校の応援団員も駆けつけてくれ、振り付けの切れの出し方などを細かくチェックしてくれました。

本番は、応援団員は丸岡、三国、金津各校の卒業生から贈られた詰め襟の学生服を着用して応援に臨みました。

また、嬉しいことに当日は姫路工業高校の応援団員と楽器部隊も駆けつけてくれ、選手に熱いエールを送りました。

先生方や地域の人だけでなくたくさんの方々の幅広い支援を受けて実現できた経験ですが、「何事も一生懸命やればできないことはないんだ」ということが実感できた良い経験となりました。

間もなく、全国高等学校野球選手権大会の県予選が始まりますが、野球部には第95回となる記念大会への出場を果たしてもらいたいと思います。



表紙の企画について

様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

福祉人材の確保・定着に向け頑張っています!!

「福井県福祉人材センター」・嶺南福祉人材バンクの活動

平成20年秋のリーマンショック以降、厳しい雇用状況が続く、福祉・介護分野が雇用の受け皿として注目されてきましたが、現在、本県では「全産業」の有効求人倍率が1.20倍前後で推移するなど、緩やかな持ち直しの動きが続いています。一方、福祉・介護分野では有効求人倍率がほぼ2.00倍に達するなど人材不足が顕著になってきており、福祉従事者の安定した質と量の確保が、極めて大きな課題となっています。

今後、少子高齢化の進展により、福祉・介護サービスは今以上に増大していくことは確実であり、福祉のハローワーク」と期待される福祉人材センターの果たすべき役割はより重要になってきます。

◎福祉人材確保の機会の拡大 ―就職面談会の充実―

6月1日(土)に福井県生活学習館(ユ・アイふくい)で開催した「ふくい福祉就職フェア」では、60法人・事業所がブースを設置し、当日訪れた200名の求職者との面談を行いました。また、同時に開催した面接対策講座には定員を超える参加がありました。

このような

県域レベルの面談会を嶺北・嶺南で年2回ずつ開催するほか、嶺北4地域(福井・坂井・奥



越・丹南)で地域密着型ミニ面談会「ふくしジョブ・ミニパーク」を開催します(福祉職理解を目的とした講座を同時開催)。

さらに、今年度より「月例面談会(マンスリーミーティング)」を毎月第4木曜日に定期的に県社会福祉センターで開催しています。

このように、日常行っている無料職業紹介事業や各種相談、夜間相談(毎月第2・4木曜日17時〜20時)、コーディネート(専門員)による毎週2回の移動相談会(越前市・大



野市)と併せ、求職者が足を運びやすいよう福祉職への就職に向けた面談・相談の機会を拡大しています。

◎働きながら資格を取得できる ―介護雇用プログラム事業―

平成21年度より、福祉職未経験者・無資格者でも福祉現場にすぐに採用される介護雇用プログラム事業を実施しています。本事業は福祉職場の就職先をあっせんし、そこで給与を得て就業しながら福祉資格を取得できるというもので、これまでに数多くの方が新たな福祉の担い手として福祉の現場に採用されています。今年度も、10月1日採用分までとして60名の利用を予定し、現在、求人事業者および求職者を募集中です。

◎福祉人材の定着にむけて

福祉職の多くが継続的な関係性を重視する対人援助であることから、職員の定着は、むしろ新規採用よりも重要と考えられます。仕事上のストレスや処遇に対する不満は、職員の就業意欲を低下させ、定着率の悪化をまねき、それが採用の厳しさとも相まって、サービス低下、事業所運営の危機に陥る場合もあります。

福祉人材センターでは、コーディネーター(専門員)による事業所訪問で、求人・職員定着に関するきめ

細かなアドバイスを行っています。

また、福祉職への「就職内定者応援セミナー」を開催し、福祉職



ならではの心構えや仕事の魅力、職場マナーを学ぶことで就職後の定着を図る取り組みを行っています。

◎職業として福祉が選ばれるために ―イメージ・アップ事業―

福祉職については、よく4K(きつい・汚い・危険・給料が安い)といったマイナスイメージがつきまとい、このため若者が福祉職を選択しないだけでなく、その家族や進路指導者も就職先として勧めることを躊躇しているということを耳にします。

このような状況を打開する方策として、若年層(小・中学生)や地域住民(主婦等)に、福祉の仕事の魅力や大切さ、将来性(安定性等)を説明し福祉職に対する良いイメージを持つってもらうため、今年度より、出前型説明会「福祉のしごと訪問説明会」を実施しています。このようなイメージアップ事業を充実し、福祉の仕事を手をPRしていきます。

【お問合せ】

福井県社会福祉協議会(福祉の人づくり支援課)

TEL 0776-2112294

市町社会福祉協議会 会長・事務局長

地域の第一線で住民の支え合い活動を推進する県内社協の会長、事務局長をご紹介します。

東日本大震災以降、地域のつながりや絆の大切さが改めて認識されている今、県内17の市町社協と県社協がネットワークと持ち味を活かして、福井の地域福祉をリードしていきます。

市町名	会 長	事務局長
福井市	吉 田 敏 貢	三ツ屋 建 治
敦賀市	村 上 哲 雄	増 門 昭 彦
小浜市 ※1	山 岸 博 之	豊 永 真 誠
大野市	金 森 閱 治	巻 寄 富美男
勝山市	佐 野 瑞 圓	阿 部 雅 雄
鯖江市	齋 藤 多久馬	竹 内 秀 博
あわら市	関 法 子	北 浦 博 憲
越前市	織 田 桂 蔵	川 渕 仁 哉
坂井市	青 木 甫	副 角 利 幸
永平寺町	永 善 信 行	加 藤 裕 治
池田町	江 端 龍 男	辻 本 悦 男
南越前町	齋藤 市左衛門	細 川 泰 司
越前町	宮 崎 泰 治	山 下 三紀代
美浜町	中 村 博 昭	秋 山 義 嗣
高浜町	内 谷 周 一	村 松 タカエ
おおい町	荒 木 茂 夫	齊 藤 洋 樹
若狭町	塚 本 新 一	田 中 文 明

※1 小浜市社協は、「会長」を「理事長」に読み替える。

福祉関係団体の会長・副会長

県民が、いつまでも“その人らしい生活”を送れるよう、社会のしくみづくりや福祉サービスの質の向上に取り組む福祉関係団体の会長および副会長をご紹介します。

県社協は、こうした多くの関係者と共に良質な福祉サービスを継続的・安定的に提供できる基盤づくりと地域福祉の推進に取り組んでいます。

団 体 名	役 職	氏 名
福井県民生委員児童委員協議会	会 長	清 川 忠
	副 会 長	清 水 武 士
	副 会 長	松 村 信 子
福井県社会福祉施設経営者協議会	会 長	白 藤 昭 武
	副 会 長	豊 永 雄 勝
	副 会 長	田 原 薫
	副 会 長	木 村 洋 子
福井県社会福祉協議会 保育部会	会 長	澤 田 夏 彦
	管 理 会 長	高 柳 博 彰
	管理会副会長	藤 光 真
	管理会副会長	前 川 徹
	保育士会長	藤 井 正 美
	保育士副会長	池 野 朋 子
	保育士副会長	浅 妻 紀 子
福井県デイサービスセンター協議会	会 長	小 川 弥 仁
	副 会 長	屋 敷 大 作
	副 会 長	川 寄 郁 子
福井県ホームヘルプサービス事業者協議会	会 長	田 原 薫
	副 会 長	山 内 まゆ美
福井県身体障害者福祉連合会	会 長	吉 村 春 男
	副 会 長	夢 田 俊 一
	副 会 長	小 山 尊
	副 会 長	丸 山 継 男
福井県心身障害児者福祉団体連合会	会 長	納 村 亮
	副 会 長	富 田 毅矩男
	副 会 長	志 摩 進
福井県セルフ振興センター	理 事 長	大 館 嘉 昭
	副 理 事 長	岡 田 政 則
福井県社会就労センター協議会	会 長	朝 日 正 幸
	副 会 長	江 守 勝
	副 会 長	岡 田 政 則
	副 会 長	橋 詰 正 道
福井県知的障害者福祉協会	会 長	木 間 幸 生
	副 会 長	本多 奥右衛門
	副 会 長	高 村 昌 裕
福井県聴覚障がい者協会	理 事 長	丸 山 継 男
福井県ろうあ協会	会 長	丸 山 継 男
	副 会 長	河 井 秋 男

団 体 名	役 職	氏 名
福井県手をつなぐ育成会	理 事 長	栗 田 幸 雄
	副 理 事 長	藤 田 卓 美
	副 理 事 長	長谷川 武 雄
福井県共同募金会	会 長	清 川 忠
	副 会 長	村 上 哲 雄
	副 会 長	吉 田 敏 貢
福井県民間保育園連盟	会 長	竹 内 文 憲
	副 会 長	澤 田 夏 彦
	副 会 長	藤 光 真
	副 会 長	菅 原 ひろみ
福井県老人クラブ連合会	会 長	内 藤 俊 穂
	副 会 長	坂 野 良 治
	副 会 長	池 田 禎 夫
福井県老人福祉施設協議会	会 長	荒 木 博 文
	副 会 長	皆 川 恭 英
	副 会 長	三田村 康 行
	副 会 長	小 川 弥 仁
福井県視覚障害者福祉協会	副 会 長	横 山 政 信
	副 会 長	小 山 尊
	副 会 長	村 上 甚 光
	副 会 長	橋 本 輝 男
福井県児童養護施設連絡協議会	副 会 長	坂 部 登志治
	会 長	木 越 直 昭
	副 会 長	渡 辺 一 幸
福井県身体障害者(児)援護施設連絡協議会	会 長	五十嵐 研治郎
	副 会 長	荒 木 博 文
福井県地域包括・在宅介護支援センター協議会	会 長	池 端 幸 彦
	副 会 長	吉 田 新 内
	副 会 長	屋 敷 大 作
	副 会 長	岡 崎 和 恵
福井県母子寡婦福祉連合会	会 長	翟 雲 隆 子
	副 会 長	平 等 智 恵
	副 会 長	広 瀬 秀 子
	副 会 長	松 田 秋 尾
福井県婦人福祉協議会	副 会 長	三田村 寿 恵
	副 会 長	千 田 要 子

福祉サービスの質の向上のためのたゆまぬ取り組み

～「足羽利生苑（特養）」、「大野荘（救護施設）」における第三者評価結果概要～

今回、サービスの質の向上の一環として福祉サービス第三者評価に取り組みました特別養護老人ホーム「足羽利生苑（福井市）」、救護施設「大野荘（大野市）」それぞれの主な評価結果および施設のコメントをご紹介します。なお、詳細は、本会ホームページに掲載していますので是非、ご覧ください。

足羽利生苑

○福祉サービスの基本方針と組織について

法人の理念に沿った施設の介護理念としての「サービス提供指針」を定め、事業計画、ホームページ等に掲載するとともに、朝礼にて唱和している。また、家族には理念、基本方針を明記した家族会総会資料を配布し、説明するとともに、施設内にも掲示し周知している。また、事業計画の策定にあたっては、部署、ユニットごとに集約された職員の意見を踏まえ立案するなど組織的に取り組み、また、定期的な計画の進捗報告や見直しがなされている。

《評価結果に対する関係者のコメント》

2回目の第三者評価を受審しました。1回目と同じであったり、または後退したりの評価でもありましたが、大事なことは評価に甘んじることなく、より主体的に内容の実態を捉え、及びアウトカムの視点で本評価への理解を深めることで職員の成長と苑の発展に繋がたいという思いを強くしました。関係の皆さまのご協力に感謝を申し上げますと共に、苑においても、地域に向けて結果の公開に努めていきたいと思っています。



○組織の運営管理について

職員個々の経験等を踏まえた年間研修計画を作成し、一人ひとりがチャレンジシートに目標を掲げ、施設外研修にも希望に応じ参加できるなど職員教育の環境が整っている。また、施設独自に設置する地域支援センター活動として、地域の高齢者宅等を訪問し、生活や介護等に関する様々な相談に応じ、内容によっては、法人内の施設や適切な他の施設の紹介など地域住民の立場に立った対応を積極的に行っている。

○適切な福祉サービスの実施について

パソコンを各部署に設置し、利用者の状態等を記録管理するほか、職員共有のフォルダーに様々な情報（会議録等を含む）を置き、いつでも確認できるよう工夫している。また、入所者の退所時には退所後も必要に応じ相談に応ずる担当職員名を記載した書類を家族に配布するなど支援の継続に配慮している。

○高齢者福祉施設固有のサービス内容について

終末期の介護について家族会総会等で説明し、家族の意向を尊重し対応することとしており、施設での最期を希望する場合、医師の「意向書」のもと「看取り介護計画書」を作成しケアにあたっている。また、外部業者を招いた「ニコニコ市場」の開催や利用者の希望による買い物外出など入所者自身でお金を支払う機会を多く設けている。

大 野 荘

○福祉サービスの基本方針と組織について

法人の目指す方向や考え方を示した基本理念を明示するとともに、これに基づき職員の行動規範となる具体的な内容を記載した基本方針（運営指針）を定めている。また、施設長は地域生活支援関連事業連絡会、全国・ブロック救護施設会議等に積極的に参加し、救護施設関係法令をリスト化するとともに、法令遵守について職員会議等で周知徹底している。

《評価結果に対する関係者のコメント》

今回で2回目の受審であり、1回目の受審結果を基に誠実に取り組んできた内容を再度、第三者の視点から客観的な評価を受け、よりよい支援の方策を見いだすために受審を行った。今回の受審では、調査員から意見・評価を受けることにより、支援に対する捉え方やヒントを得たこと、及び再点検ができ、支援の基本・原点に立ち返れる良い機会となった。今後は、今回の結果を基に、職員それぞれが諸課題を共有化し、利用者本位のサービス向上への改善に努めたい。



○組織の運営管理について

人事考課に関するガイドラインが作成され、労政時報や市職員勤務評定実施要項を基にした研修を行い、考課結果については職員一人ひとりにフィードバックしている。また、危機管理マニュアルを整備し、災害時の対応体制を確立しており、居室別の利用者一覧表を作成し、自力避難可能、要援助等の区別がなされ外部からの応援者にもわかるようにしている。

○適切な福祉サービスの実施について

毎週、利用者を対象とした「よろず相談日」を設けるほか、目安箱を設置している。また、苦情解決委員会、よろず相談日等については書面により利用者、家族に配布している。なお、会話が困難な利用者には担当職員が個別に対応している。

○障害者施設固有のサービス内容について

全ての職員がパソコンにて管理する利用者の情報を共有するとともに、必要に応じ、書面による情報を得、利用者の主体的な活動を支援している。

注）本県では、救護施設について障害者福祉施設用の第三者評価基準を使用しています。

平成 25 年度福井県介護支援専門員実務研修受講試験のお知らせ

1	試験日時	平成 25 年 10 月 13 日（日）午前 10 時～12 時※ ※終了時間は所有資格等により異なります。
2	試験会場	福井大学 文京キャンパス（福井市文京 3-9-1）
3	受験資格	次の①、②、③のいずれかを満たす方 ① 保健・医療・福祉に関する資格等に基づく業務に 5 年以上従事していること ② 一定の相談援助業務または介護等の業務に 5 年以上従事していること ③ 一定の介護等の業務に 10 年以上従事していること
4	受験申込方および受付期間	所定の受験申込書および試験案内に示す必要書類を受付期間内に①持参または②郵送により提出してください。 受付期間：平成 25 年 7 月 16 日（火）～7 月 30 日（火） ① 持参の場合 受付時間：午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分（土、日曜日除く） 受付場所：県社会福祉センター 3 階老人談話室 ② 郵送の場合 郵送方法：簡易書留郵便に限ります（受付期間内の消印有効）。
5	試験案内・受験書の配布	試験案内および受験申込書は次のとおり配布します。 配布期間：平成 25 年 6 月 24 日（月）～7 月 30 日（火） 配布場所：各市町介護保険担当課、坂井地区広域連合介護保険課、各市町社会福祉協議会、県長寿福祉課、各健康福祉センター、県社会福祉センター ※ 郵送による配布を希望される方は、角 2 サイズの返信用封筒に郵送先を宛名書きし、200 円分の郵便切手を貼って、7 月 23 日（火）までに試験事務局あて送付してください。
6	合格後	試験合格者を対象に行われる実務研修の修了後に介護支援専門員として登録されます。

詳細については試験案内をご確認ください。

試験事務局・お問合せ先

福井県社会福祉協議会・福祉の人づくり支援課（TEL 0776 - 21 - 2294）
住所：〒910-8516 福井市光陽 2-3-22 県社会福祉センター内

また、「社会福祉法人の認可について」（平成 12 年 12 月 1 日障発第 890 号厚生省大臣官房障害保健福祉部長等連名通知）においても、一般の方に対して、会報への掲載のほか新聞等への公告等の方法により自主的に公表することが適当であると示されております。

厚生労働省は、5 月 31 日付で「社会福祉法人の運営に関する情報開示について」として都道府県知事等の社会福祉法人所轄庁に対し、管内社会福祉法人の業務および財務に関する情報開示を進めるよう通知を出しました。

同通知では、社会福祉法人の情報開示について、社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）第 44 条において、社会福祉法人は業務および財務等に関する情報（事業報告書、財産目録、貸借対照表、収支計算書および監事の意見書）を備え置き、利用希望者その他の利害関係人から請求があった場合には、閲覧に供しなければならぬとされており、開示を義務付けています。

『社会福祉法人の情報開示について』 社会福祉法人の皆様へ!!

しかしながら、社会福祉法人の非営利性・公共性に鑑みて、運営に当たって強い公的規制を受ける一方で、国庫補助や税制優遇を受けているという法人の性格から、更なる法人運営の透明性の確保が求められており、厚生労働省のホームページ上に平成 24 年度分の貸借対照表および収支計算書を掲載することとしておりますので、社会福祉法人におかれども、業務および財務等に関する情報について、一般の方の閲覧が可能となるよう、インターネットや広報等を用いて公表するなど適切な対応をしてください。



「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」

6月9日(日)南越前町にて、「第54回福井県保育研究大会」がみだしのテーマのもと開催されました。

午前、保育所運営のあり方や地域との連携・協働など、テーマ別に8つの分科会に分かれて、熱心な討議が行われました。

また、午後は保育関係者650名が一堂に会し、式典、鯖江市公立保育所研究会の研究発表をはじめ、「特別支援教育と幼児教育 気になる子どもをみんなで見守り育む」と題して、聖徳大学児童学部 教授 小田 豊氏の記念講演が行われました。

最後は大会宣言が行われ、保育の質の向上に向けた決意を参加者全員で確認しました。



分科会でのグループ討議



記念講演

第54回福井県保育研究大会宣言文

～前文省略～

- 一 私たちは、子どもの最善の利益の保障はもとより、家庭や地域と連携し、保育所の利用の如何を問わず、保護者に対する子育て支援に努めます。
- 一 私たちは、専門職として常に保育の質の向上を目指すとともに、その取り組みを広く保護者や地域に伝えるよう努めます。
- 一 私たちは、保育を通して子育ての楽しさ・食べる楽しさ・子ども成長の喜びを共有しながら、親も子も育つ環境づくりに努めます。
- 一 私たちは、子どもの尊い命を守ることはもとより、心身ともに健やかな成長を支える上で必要な保育について、子どものみならず私たち自身も育ち合う仲間として職場内外を問わず積極的に議論し、提案します。

平成25年6月9日

第54回福井県保育研究大会

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

6月14日 ワンコイン募金運動募金 273,000円
使用済み切手 47,3kg(約331,000枚)
書き損じハガキ 57枚

贈呈者

小浜信用金庫様 福井県信用金庫協会様

使用済み切手および書き損じハガキは知的障害者の社会啓発運動および自立支援、生きがいづくり支援事業を行っている団体へ送付



社会福祉施設 しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

①基本補償

- 基本補償(A型)は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償(B型)は、賠償責任のない場合の見舞金が充実
- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含みます)に補償

③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償



◆スケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。

プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記にお願いします。

団体
契約者 社会福祉法人
全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱
代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈SJ12-11537 2013.2.4作成〉



積善会 腰田副理事長からの目録贈呈

去る6月14日（金）、財団法人積善会から本会へ2億円が助成されました。財団法人積善会は昭和45年の設立以来、県内の福祉活動、教育、スポーツ、文化、まちづくりなど幅広い分野の助成事業を行い、支援の輪を広げてこれ来ました。この43年間の助成累計は約30億円（約1,600件）にのぼります。

積善会より2億円の助成 県内の社会福祉のさらなる推進のために

このたび、平成25年11月をもって財団を解散することになり、社会福祉のさらなる推進と本県の発展に向けて、本会ほか13団体に対して助成金が交付されました。本会への助成金は社会福祉基金に積み立て、運用益を福祉関係団体等への福祉車両寄贈事業に活用させていただく予定です。



助成先（13団体）を代表して謝辞を述べる清川県社協会長

福祉車両（積善会号）寄贈事業のご案内（募集）

本県の社会福祉の増進を目的に、財団法人積善会から県内社会福祉関係機関・団体等へ福祉車両を寄贈します。（2車種4台を予定。）詳細は、福井県社会福祉協議会ホームページ（<http://www.f-shakyo.or.jp/>）をご覧ください。



※写真はイメージ図。実際のものとは仕様等が異なる場合があります。

申込期限 7月31日（水）

『社協会長会「総会・例会」を開催

県内社協の会長で構成する「県市町村社協会長会」の総会・例会が、去る6月17日、坂井市（いきいきプラザ霞の郷）で開催されました。

総会では、平成24年度の事業報告・収支決算の審議の後、政策提言や地方自治体への要望活動、震災被災地への継続的な支援活動の実施などを中心とした平成25年度の事業計画案・収支予算案も審議され、原案どおり可決されました。



また、任期満了に伴う役員（幹事・会計監事）の改選も行われ、清川忠代表幹事（県社協会長）が再任されました。

続く例会では、事業活動、財政の基盤強化や人材育成など、県内社協に共通する課題が確認されるとともに、会長のリーダーシップのもと、市町村協単位でも積極的な組織強化に取り組む重要性などについて活発な意見が交わされました。

『県市町村社協会長会役員』

▼代表幹事：清川忠（県社協）、▼副代表幹事：村上哲雄（敦賀市社協）、▼幹事：佐野瑞圓（勝山市社協）、江端龍男（池田町社協）、塚本新一（若狭町社協）、▼会計監事：青木甫（坂井市社協）、宮崎泰治（越前町社協）

※敬称略

推進運動
スローガン

つなぐ！ 80万人のボランティアの輪
～県民をつなぐ「おかげさま」と「お互いさま」の輪～

福井県ボランティアセンターでは、本県におけるボランティア活動の一層の推進と、県民のみなさまが、ボランティア活動を通じて「つながり」や支え合う社会の「価値」や「豊かさ」を実感できるよう、様々な事業を通じて『「つなぐボランティアの輪」推進運動』を実施します。みなさまのご参加をお待ちしています！！

プログラム

1

つなぐ楽しさを実感しよう！

エコキャップアートコンテスト

捨てればゴミになってしまうペットボトルのキャップを使って、みんなのつながり合う「しあわせ（Happy）」の形をアートにしませんか？

このコンテストで集まったキャップはリサイクルし、その売り上げで海外の子ども達にワクチンを提供するエコキャップ運動に寄付します。

身近なボランティアを通じて、みんなと「つなぐ」楽しさや喜びを分かち合いましょう！

優秀作品には豪華賞品も！



2

夏休みにボランティアしよう！

サマーボランティア体験 2013

福祉施設でのお手伝いや環境保護活動など、豊富な活動メニューの中から興味・関心のあるボランティア活動を選んで体験することができます。この夏、新しいことにチャレンジしてみませんか？

期 間 7月～9月

対象者 小学生高学年以上でボランティア活動に関心のある方

申込先 お住まいの市町社会福祉協議会ボランティアセンターまで



3

ボランティアについて考えよう！

ボランティア作文コンクール

テーマ

- 1) ボランティア活動の経験から得たこと・感じたこと
- 2) ボランティアについての自分の思い・考えていること

児童・生徒をはじめ広く県民から、ボランティアに関する作文（800字以内）を募集します。優秀な作品は、11月2日（土）に福井県生活学習館で表彰するとともに福井県ボランティアセンターのホームページで紹介させていただきます。



4

みんなの気持ちをひとつに！

第60回福井県社会福祉大会・エコキャップアートコンテスト

期 日 11月2日（土）

会 場 福井県生活学習館

- 1) 式典イベント（福井県社会福祉大会表彰式、ボランティア作文コンクール表彰式等）
- 2) 金澤 泰子さんによる講演会と金澤 翔子さんによる書のパフォーマンス
- 3) つながりイベント（エコキャップアートコンテスト等）など



いつ
つなぐの？
今でしょ！！

各プログラムの詳細は、ポスターやチラシ、福井県ボランティアセンターのホームページで随時お知らせします。

福井県ボランティアセンター

HP: <http://volunt.f-shakyo.or.jp/> E-mail: volunt@f-shakyo.or.jp
TEL: 0776-24-4987 FAX: 0776-24-0041